

平成 19 年 4 月 12 日

各 位

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社

代表取締役社長 黒田 直樹

(コード番号：1605)

問合せ先：広報・IR エキスパートマネージャー 宮本 修平

(電話：03-5448-0205)

インドネシア共和国マハカム川河口デルタ地域環境保護プログラムへの参加について

当社子会社国際石油開発株式会社は、この度、インドネシア共和国東カリマンタン州にて、インドネシア共和国政府、東カリマンタン州等の地方行政機関および国連開発計画 (United Nations Development Programme) とともに東カリマンタン州マハカム川河口のデルタ地域 (マハカムデルタ) における環境保護プログラムに TOTAL 社とともに参加し、これを支援することといたしましたので、お知らせ致します。

本プログラムは、近年エビ養殖池の造成により失われてきているマハカムデルタのマングローブ林の再生・保護を推進し、地域社会の環境保護への取り組みを進め、自然環境と両立した地域社会の発展を目指す活動です。

本プログラムは、今後 5 年間の期間に亘り実施され、マングローブ林の再生・保護を行うのみならず、地域の農業・林業・水産業が統合された環境保全・地域社会発展への取り組みのモデルである「シルボ・フィッシャー方式」を採用し、エビ養殖池の設置・運営とマングローブ林の保護を両立させ、地域社会の発展を図るものです。また、本プログラムは、持続的な改善を可能とするモデルを確立することを目指すものであり、その後これを基盤とした自立的な維持・発展を通じてマハカムデルタ全体の環境再生・保護と地域社会の発展を実現させることを目標としているため、地域の行政機関の人材育成や環境保全体制の整備、地域住民への環境保全の重要性の理解促進のための活動も重要な実施項目として含まれています。

また、本プログラムは、インドネシア政府、国連開発計画、TOTAL 社及び国際石油開発(株)の拠出による総額 360 万ドルを基金として進められる予定ですが、国際石油開発(株)は、毎年プログラムの成果を確認したうえで資金を提供し、5 年間で総額 100 万ドルを本プログラムに拠出するとともに、本プロジェクトの最高意思決定機関であるプロジェクト委員会への参加を通じて、プログラムの計画を策定し、活動の実施状況のモニタリングを行い、プログラムが効果的に実行されるよう支援してまいります。

当社グループは、東カリマンタンマハカム沖鉦区の石油・天然ガスの探鉱、開発、生産事業を、パートナーである TOTAL 社と 50:50 のシェアにて共同で実施しておりますが、本プログラムへの参加等を通じて、同地域における環境保護活動をはじめとする社会貢献活動にも一層積極的に参加して参ります。

以上